

財団  
法人 東洋文庫年報

昭和 62 年度

財団法人 東洋文庫

目 次

I 昭和62年度の東洋文庫	3
II 図書事業	5
1. 図書資料の収集	5
2. 図書資料の保存整理	6
3. 図書資料の閲覧	7
4. 研究資料複写サービス	9
III 研究事業	10
1. 調査研究	10
i 文部省科学研究費による調査研究	10
ii 一般調査研究	15
iii 特別調査研究	18
iv 研究委員会	19
2. 学術図書出版	20
3. 講演会	21
4. 研究会（東洋文庫談話会）	22
5. 研究者養成	23
6. 学術情報提供	23
i 研究者の交流及び便宜供与サービス	23
ii 研究会等への会場提供サービス	26
iii 研究資料の複製・増刷・刊行サービス	27
7. 職員の研究業績	28

IV 業務報告 .....	43
1. 総務報告 .....	43
2. 人事報告 .....	44
V 役職員名簿 .....	46
1. 役員 .....	46
2. 東洋学連絡委員会委員 .....	48
3. 名誉研究員 .....	48
4. 職員 .....	49
5. 臨時職員 .....	52
VI 財団法人東洋文庫附置	
ユネスコ東アジア文化研究センター事業 .....	53
1. 情報活動 .....	53
2. 研究成果の英文出版 .....	56
3. 調査研究及び普及活動 .....	56
4. 業務報告 .....	58
5. 役職員名簿 .....	61

## I 昭和62年度の東洋文庫

本年度の図書事業に関する報告は、「財団法人東洋文庫の財政的危機をのりきるための万やむを得ない措置として、広橋家旧蔵文書123点を国立歴史民俗博物館へ、最終年度分として譲渡した」という記述から始まっている。広橋家旧蔵文書の譲渡は昭和58年度から五回にわたって行われたが、別に昭和59年度及び60年度には国宝日本書紀を始め、重要文化財に指定されている明恵上人歌集・扶桑略記・律・令義解の計五点が文化庁に譲渡されている。広橋家旧蔵文書計950点と併せて総計955点が東洋文庫の所蔵から姿を消したわけである。

図書館がその所蔵の図書を他の機関に譲渡するのは、事情の如何にかかわらず、最も哀しむべきことであって、縁あって東洋文庫の保存に帰し、常に東洋文庫の誇の一つとなっていたこれらの図書そのものがこうした処置を如何に感じているであろうかと思ひやる時、関係者として何と詫びてよいか、辞の出すべきものを知らない。願わくは新しい場所に移って、学術の研究のために一層役に立ってほしいと祈るばかりである。

幸に日本を除くアジア諸地域に関する資料の増加は、購入9580冊、受贈7405冊、計16985冊に上り、東洋文庫の本来の資料の所蔵が順調に増加している事実は、やや意を強くするに足りるものがある。

さらに意を強くさせるのは、研究事業の充実ぶりである。それを示すのは、文部省科学研究費による調査研究である「近・現代中国における日本関係出版物の研究」、「ペルシア語文化圏の成立と展開に関する総合的研究」、「スタイン蒐集敦煌文献現地総合調査」、東洋文庫研究部の十二研究委員会のそれぞれの活動、さらに十二研究委員会の一部が特別調査研究の名のもとに行っている「チベット特別調査研究」、「近代中国特別調査研究」の調査研究と、それら各種研究委員会による目録その他の刊行物、講演会・東洋文庫談話会（即ち研究会）である。

中でも「近・現代中国における日本関係出版物の研究」は、日本に関する出版物、日本書の中国語訳とその出版が如何に行われたか、その種類と数量とを統計的に調査し、自然科学に関する日本書の中国語訳が最も多い事実を明かにした。

また「ペルシア語文化圏の成立と展開に関する総合的研究」は、イスラム世界でペルシアを中心としてペルシア語を国際語とするペルシア語文化圏が成立したが、ペルシア周辺諸地域の歴史、文化、社会等には、ペルシア文化を中心としながら、それぞれの地域的な特色が成長し、ペルシア語文化圏の統一性と多様性が明確に区別せられるという。

さらに「スタイン蒐集敦煌文献現地総合調査」は、スタイン蒐集の敦煌文献のう

ち旧印度省図書館所蔵のチベット語文献及びその紙背等に記されている中国語文書を再調査し、そのマイクロフィルム複写と照合して、正確にして信頼すべき目録を作成することを目的としている。このために四人の専門家がロンドンに赴き、実物文書とマイクロフィルムとの対校に当たった。この完成によってスタイン蒐集のチベット語文書は学問的利用に堪える資料となるであろう。

十二研究委員会の中、本年度の当番に当るのは(8)日本研究委員会と(3)唐代史(敦煌文献)研究委員会とであるが、何れも見るべき成績を挙げている。

東洋文庫は、1924年の財団法人設立以来、単なる東洋学研究所の資料や研究書を集め、これを公開する専門図書館に止るものではなかった。それは言わば研究図書館とも称すべきもので、図書館は研究所に併設せられたものと考えられて来た。

これは白鳥庫吉博士の発案に基づく構想であった。第一次世界大戦(1914—18)によって、日本の東アジアにおける地位が一層重きを加えると、日本人によるアジア研究を盛んにすることの必要性をいよいよ痛感した博士は、国家の保護の下に、一大研究機関を設け、その事業として文献による研究、探検員・調査員の派遣、研究者の養成、図書物品の蒐集、世界に対する研究成績の発表、などを行うべきことを諸方面の有識者に提議せられた(「東洋文庫の60年」, 67頁)。こうした大規模な構想からいえば、東洋文庫の研究部は規模の小さいものであるが、東洋文庫の設立を機会にそこに研究部を設け、東洋文庫を単なる図書館とせず、公開の図書部を含めた研究所としたのは、正に白鳥博士の多年の願望が実を結んだものである。

本年度の研究部は専任・兼任の研究員六十九名、名誉(即ち外国人)研究員6人、計75人。それら兼任・専任の研究員の挙げた業績は、この年報の該当箇所に詳かである。

東洋文庫の附置機関であるユネスコ東アジア文化研究センターは1961年設置されて以来、活潑な活動を継続している。その活動の目標は東アジア地域の諸国がそれぞれ一国として研究調査の活動を行うのではなく、東アジア全地域に共通する文化・歴史・社会・経済等に関する諸問題を、全地域に属する多くの専門家がグループとして調査研究に当る、その組織作り、成果のまとめ、その出版を行うことにある。この意味においてユネスコ東アジア文化研究センターの活動は、東洋文庫研究部の活動の延長である。本年度の成績は本年報に詳しいが、共通の課題の共同調査のほかに、研究機関一覧の編集、各種文献目録の編集・出版、アジア研究史の編集出版を始め、「アジア諸国における最近の考古学的発見」の出版、「ラーマー一世代記」の訳注の作成刊行等、幅の広い活動を精力的に行っている事実は、注目に値するであろう。

貴重文書等の譲渡によってやや後退の色を見せた本年度の東洋文庫は、研究活動の方面においてこの褪色をカバーする大きな前進を見せた。今後もそうありたい。

## II 図書事業

### 1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は、一般文献資料・中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料・東南アジア特別研究資料・チベット特別研究資料・近代中国特別研究資料があり、昨年度より14,806冊が増加した。しかし、財団法人東洋文庫の財政的危機をのりきるための万やむを得ない措置として、広橋家旧蔵書123点を国立歴史民俗博物館へ、最終年度分として譲渡したため、蔵書数は699,533冊となった。

#### ・資料購入

	和漢書	洋書	その他	マイクロ・フィルム	計
一般文献資料	217冊	161冊	0	0	378
中央アジア特別研究資料	1	439	0	0	440
東アジア特別研究資料	4,731	2	0	0	4,733
西アジア特別研究資料	1	495	0	0	496
東南アジア特別研究資料	0	120	0	0	120
チベット特別研究資料	0	15	2,179枚	0	2,194
近代中国特別研究資料	1,132	87	0	0	1,219
計	6,082	1,319	2,179	0	9,580

#### ・資料交換

	受贈			寄贈		
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計
単行本冊	818	780	1,598	1,274	932	2,206冊
定期刊行物冊	4,292	1,515	5,807	930	774	1,704冊
計冊	5,110	2,295	7,405	2,204	1,706	3,910冊

## 2. 図書資料の保存整理

資料の利用を考慮した資料の保存・整理の問題を積極的に検討し、計画的に作業を実施している。

### ・補修再製本・製本

① 区 分	単 行 本		
	和 装		洋 装
数 量	裏打 10,507冊	172冊	525冊

② 区 分	定期刊行物	製 帙	複 写 資 料 製 本		その他
	数 量	1,571冊	112帙	和装 128冊	洋装 289冊

### ・撮影・焼付

区 分	撮影駒数	焼付引伸数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数 量	38,084 コマ	26,662 枚	497 リール	2,698 枚	14 件

### 3. 図書資料の閲覧

#### ・図書利用状況

本年度の所蔵資料の利用状況は次の通りであった。

月	開館 日数	閲覧 者数	一日 平均	昨年同月 との比 (△印は 減)	閲覧 図書数	一日 平均	昨年同月 との比 (△印は 減)
4	24 <sup>日</sup>	287 <sup>人</sup>	12 <sup>人</sup> 弱	45 <sup>人</sup>	4,989 <sup>冊</sup>	208 <sup>冊</sup> 弱	1,970 <sup>冊</sup>
5	23	303	13 <sup>強</sup>	0	3,176	138 <sup>強</sup>	△1,583
6	25	368	15 <sup>弱</sup>	6	4,419	177 <sup>弱</sup>	87
7	26	424	16 <sup>強</sup>	52	5,749	221 <sup>強</sup>	1,158
8	25	414	17 <sup>弱</sup>	△31	6,870	275 <sup>弱</sup>	△1,013
9	23	376	16 <sup>強</sup>	25	5,561	242 <sup>弱</sup>	288
10	25	492	20 <sup>弱</sup>	△17	7,917	317 <sup>弱</sup>	163
11	21	446	21 <sup>強</sup>	18	5,991	285 <sup>強</sup>	211
12	22	382	17 <sup>強</sup>	△5	6,203	282 <sup>弱</sup>	1,915
1	21	187	9 <sup>弱</sup>	△47	3,052	145 <sup>強</sup>	253
2	23	317	10 <sup>弱</sup>	△31	2,949	128 <sup>強</sup>	△1,160
3	25	260	10 <sup>強</sup>	△14	5,104	204 <sup>強</sup>	△236
計	283	4,256			61,980		



・ 閱 覧 図 書 数 内 訳

月	和 書		漢 書		洋 書		合 計	
	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数
4	184	594	684	3,883	229	512	1,097	4,989
5	200	364	418	2,363	247	449	865	3,176
6	311	638	561	2,968	353	813	1,225	4,419
7	327	885	712	4,394	374	470	1,413	5,749
8	411	1,158	887	5,312	273	400	1,571	6,870
9	404	876	622	4,106	216	579	1,242	5,561
10	371	703	963	6,635	303	579	1,637	7,917
11	293	453	775	4,863	379	675	1,447	5,991
12	308	443	812	5,434	202	326	1,322	6,203
1	174	363	331	2,532	82	157	587	3,052
2	223	515	297	1,884	179	550	699	2,949
3	266	525	530	4,335	175	244	971	5,104
計	3,472	7,517	7,592	48,709	3,012	5,754	14,076	61,980

#### 4. 研究資料複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

##### ・ マイクロ・フィルム

申込件数	撮影駒数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
866 件	195,579 コマ	125,911 枚	108,681 コマ

##### ・ 電子複写

申込件数	焼付枚数
931 件	55,250 枚

### III 研究事業

#### 1. 調査研究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、国庫の補助金による一般・特別調査研究とに分かれる。

##### i 文部省科学研究費による調査研究

###### 一般研究 (B)

【課題】 近・現代中国における日本関係出版物の研究

【期間】 昭和62年度（2ヶ年継続事業初年度）

【目的】 近年の中国の対外開放政策は日中関係にも新たな展開をもたらし、各方面にわたり両国間の交流が活発になっている。この関係の今後の発展に不可欠なのが近代の両国関係の歴史をふまえた相互理解である。しかし、日本の膨大な中国研究のなかで中国の対日観についての研究は従来必ずしも十分ではなかった。こうした観点にたつて、本研究は、近代以降の中国で、日本に関してどんな図書が出版され、日本のどんな図書が翻訳されているかを調べ、それにより、中国は過去において日本をどのように見ていたか、日本に何を求めていたか、また、現在はどうであるかを考えようとするものである。

【事業】 (1) 『全国総書目』(1949-83)、『全国新書目』(1984-86)、『中華民国出版図書目録』(1949-86)などの目録類から日本に関する中国書(日本書の中国訳をふくむ)を選んでカードにとつた。

(2) 本研究に関連する既刊の目録類を検討して、以下の作業をおこなった。

① 山口一郎編『近代中国の対日観』は、1912～67年に出版された

日本に関する中国人の著作を対象にしている。本研究では、本書に漏れている図書および1968年以降に出版され、東洋文庫で収集し得た図書について、その内容を検討し、必要なものには解題をつけた。

- ② 小川博編『中国訳日本書綜合目録』には、1660年代から1978年までに出版された翻訳書が収録されており、①に記した作業によって、1979年以降の分を補った。これらを併せて、近・現代中国における中国訳日本書の出版状況について分野別、年代別にその特徴を明らかにするために、カードの分類をおこなった。
- (3) 以上の作業のなかから、これまでに明らかになった主な点は以下のとおりである。
- ① 日本に関する中国書のうち、日本書の翻訳が多数を占め、1949年以降では、また、翻訳書の40～50パーセントが自然科学関係である。
- ② 中華人民共和国では、1978年より日本関係図書の出版が増加し始め、1980年以降その傾向は著しい。①にふれた自然科学関係を除き、図書の主題を1977年以前、とくに1950～60年代のそれと比べると、1978年以降は教科書を含む日本語学習書が多くなっていること、社会科学分野で日本の産業経済関係が比較的多いこと、日本文学の翻訳書がかったのプロレタリア文学中心から一般通俗文学にまで及ぶようになってきていること、などの特徴がみられる。

【代表者】 市古宙三

【分担者】 総括；市古宙三

1840～1911年の出版物について：河鱈源治

1912～1930年            "            ：山根幸夫

1931～1948年           "            ：田中正俊

1949～現在             "            ：本庄比佐子

## 総合研究 (A)

【課題】 ペルシア語文化圏の成立と展開に関する総合的研究

【期間】 昭和62年度（2ヶ年継続事業最終年度）

【目的】 イスラム時代以後の国際語として使用されたペルシア語を媒体に、イランを中心とする世界の東西にペルシア文化の華が開花し、「ペルシア語文化圏」が成立した。本研究の目的は「ペルシア語文化圏」の諸地域のうち、イラン本土と、周辺の小アジア、中央アジア、インド・アフガニスタンの歴史、文化、社会等を比較検討することにより、「ペルシア語文化圏」の統一性と多様性を明らかにすると共に、イスラム文化におけるペルシア文化の特質をも明確にしようとするものである。具体的には「成立班」、「展開班」の各研究分担者が、それぞれの分野における代表的ペルシア語文献から術語、重要事項を抜き出してカード化し、さらにこれらを整理して翻訳し、これらの比較検討を通して「ペルシア語文化圏」諸地域の共通点、相違点を明らかにしていく。

【事業】 ① 各分担者は61年度に続き、本年度も「成立班」、「展開班」はそれぞれ小グループに分かれ、各自の専門分野の代表的なペルシア語文献である『集史』、『五族譜』、『高貴系譜』、『学習の基礎』、『旋律の意図』等の中から抜きだした基本的な重要事項と術語とを整理し、これらの比較・検討を重ねた。

② また、本源資料である写本資料にまで遡って作業を進めたが、各グループ単位の作業の過程で、あるいは各グループの研究成果を比較・検討する過程で、ペルシア語刊本と写本との字句の相違が当初の予想をはるかに上回る極めて著しいものであることが確認できた。

③ 本年度にはいくつかの重要なペルシア語写本の校訂を行い、これらを利用した多くの研究成果を挙げ、我が国における組織的なペルシア語写本資料による研究の第一歩を大きく踏み出すことができたと自負しているが、ペルシア語文化圏の諸地域を考察するために報告書作成にあたっては、現在知られている唯一の写本で、未だ校訂・出版されていない『五族譜』（14世紀、イランにおいてペルシア語で著されたアラブ、モンゴル、ユダヤ、フランク、ヒタイの歴代帝王とその一族の系譜集）イスタンブール写本の「モンゴルの条」から「チングス汗一門の将臣・妃妾一覧の項」を校訂して、研究成果の一部として公開した。

【代表者】 志茂碩敏

【分担者】 統轄：志茂碩敏

ペルシア語文化圏の成立班： 本田實信、羽田亨一(以上、イラン史学)、岡崎正孝、八尾師 誠(以上、イラン社会)、黒柳恒男、中村公則(以上、

ペルシア文学)、繩田鉄男(ペルシア語学)、関 喜房(イラン古典音楽・音韻学)。

ペルシア語文化圏の展開班： 小山皓一郎、井谷鋼造(以上、小アジアセルジューク朝史)、岩見 隆、松本耿郎(以上、中央アジアスーフイズム)、加藤和秀、堀川 徹(以上、アフガニスタン社会)、小名康之(インドムガル朝史)。

### 海外学術研究調査総括(研究成果)

【課題】 スタイン蒐集敦煌文献現地総合調査(昭和61年度海外学術調査)

【期間】 昭和62年度(単年度)

【目的】 今世紀初め敦煌で発掘された漢文、チベット語、サンスクリット語、コータン語等の文書・写本類の多くは、イギリスのスタイン卿(Sir Aurel Stein)やフランスのペリオ(P. Pelliot)等の手によって持ち帰えられ、前者はイギリスのインド省図書館(India Office Library)と大英博物館の東洋文献センター(Oriental Manuscripts and Published Records)に、また後者はフランスの国立図書館(Bibliothèque Nationale)に保存されている。そのうちペリオ蒐集チベット語文献に関しては、マルセル・ラルー(M. Lalou)女史による3冊の目録が編纂されているが、スタイン蒐集チベット語文献に関しては、ルイ・ドゥ・ラ・ヴァレ・プサン(L. de Vallee Poussin)のメモをもとにした不完全な目録しか存在しなかった。そこで東洋文庫は、インド省図書館所蔵のスタイン蒐集チベット語敦煌文献をマイクロ・フィルムによって将来し、その調査研究をすすめる、詳細な解題目録(既刊11冊)を刊行してきた。しかし、その最終段階に至って、それを完全なものとする際の幾つかの問題点が出てきた。まずマイクロ・フィルムのみによる調査であったために、プサン目録の記述とマイクロ・フィルムとの間に異同の確認できない文献が、600点程生じた。これらのうちには、既刊目録中に対応文献不明として空欄のまま残されているものに対応するものと、プサン目録には扱われていないものが含まれている筈であるが、マイクロ・フィルムだけからでは、それを判定することができない。また、対応文献不明として空欄になっているもののなかには、プサン目録に記載がありながら、マイクロ・フィルムに撮影されていない文献も含まれる可能性があり、さらには、対応は確認されるがフィルムの写りが悪く、判読できないために空欄に

なっている文献もある。これらは、現地において実際に写本を調査研究しなければ解決できないことは言うまでもない。また、チベット語文献として一括保存されている写本の中にも、裏側や余白に漢文が記載されている場合がある。それらについては既に本調査研究代表者（榎一雄）による目録が、プサン目録に付録として収録されていた。しかしその記述とマイクロ・フィルムとの間の対応は全く確認されていないままであった。これらも含め、スタイン蒐集の全関連文献の異同一覧表を作成し、既刊の目録の中で与えられている文献番号と、元写本ないしはマイクロ・フィルムの対応を整理する必要があった。それによって、まだ文献番号の与えられていない文献に対しては、新たに番号を付けることもできるようになる。以上のような課題のもとにイギリスにおいて調査研究が行われたが、その成果は予想以上のものがあつた。本調査研究総括は、現地調査によって新たに得られた貴重な情報を広く斯界に提供すべく、従来の『スタイン目録』の補訂篇として、スタイン蒐集敦煌文献現地総合調査の報告書を編纂することを目的とする。

**【事業】** 本調査研究総括においては、既刊『スタイン目録』の第12分冊として、今回の海外学術調査で明らかにできた情報のみを取り上げ、解題目録を作成した。その研究成果は：

- ①作成したカードについて、新たに撮影したマイクロ・フィルムの焼付けをもとに、書写の校閲を行った。
- ②文献の内容を分析し、既刊目録、大蔵経等と勘当した。
- ③現地での書き込み、メモを元に、
  - a) 文献番号の統一を図り、その新旧異動対照表を作成した。
  - b) 全フォーリオについて、各種文献番号を確定した検索表を作成した。
  - c) 漢文文献の文献番号と写本およびマイクロフィルムの対応表を作成した。
- ④以上を研究成果の報告書として『スタイン目録』第12分冊として、編集・印刷し刊行した。

**【代表者】** 榎 一雄

**【分担者】** チベット文（歴史）：山口瑞鳳  
漢文（蕃漢文書）：土肥義和  
チベット文（禪）：木村隆徳  
"（密教・経）：田中公明  
チベット文（論書）：福田洋一

## ii 一般調査研究

本年度は、特に、日本研究委員会、唐代史(敦煌文献)研究委員会を中心に調査研究を行った。

### 東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 故梅原末治評議員(京都大学名誉教授)の寄贈にかかる東亜考古学資料(写真,実測図,拓本,野帖等)の整理とその目録の作成。(特に日本の部を含む東亜の部青銅器資料の整理とその目録の作成を行う) (前年度の継続)

### 古代史研究委員会

【資料の整理】 ①『東洋文庫所蔵梅原考古資料目録—日本之部・中国之部・韓国之部—(II)』の作成。(前年度の継続)

②東洋文庫所蔵中国画像名,造像名,墓碑銘拓本の整理研究。

### 唐代史(敦煌文献)研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】 ①『敦煌・吐魯番等出土文書関係論著目録』(仮題)の作成

②国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と,マイクロフィルムによる収集・整理。

③内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献の公開,および情報の提供。

④『敦煌・吐魯番出土文書社会経済史関係文書集』の編集・刊行。(以上,前年度の継続)

⑤内陸アジア出土古文献研究会の開催。

4月11日(土) 「東洋文庫海外学術研究『スタイン蒐集敦煌文献現地総合調査』の報告」

山口瑞鳳 「チベット文献について」

土肥義和 「漢文文献について」

7月22日(木) 金岡照光・池田 温

「香港中文大学中国文化研究所・香港中華文化促進中心主催の『国際敦煌吐魯番学術会議』に参加して」

9月19日(土)

池田 温 「近刊・敦煌吐魯番関係文献目録二・三」



- 荒川正晴 「吐魯番出土文物研究会（仮称）について」  
11月21日(土) 賀 世哲・劉 永増  
「国際敦煌石窟討論会及び敦煌研究院近況」  
12月19日(土) 岡野 誠 「敦煌本唐戸婚律放部曲為良条について」  
池田 温 「韓国磐主編『敦煌・吐魯番出土經濟文書研究』厦門大學出版社（1986年12月）」  
1月16日(土) 森安孝夫 「最近訪中の成果と Young Tonkologists の近況について」

#### 宋代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ①『宋史選舉志』の訳註書の作成及び同研究会の開催。  
②『宋史食貨志』研究，訳註作成。（以上，前年度の継続）  
③宋代研究文献目録及び速報の作成。  
④『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。

#### 明代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ①『四友齋叢説』（元明史料筆記叢刊之一）を主として，元明代社会に関する文献の講読・研究。（隔週，研究会の開催）

#### 清代史（満州・蒙古）研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ①「旧満州檔」の整理。  
②「鑲紅旗檔」乾隆期（後半部分）の整理・研究。  
③『政考便覧』の講読研究会の開催。（隔週，研究会の開催）（以上，前年度の継続）

#### 近代中国研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ①中国共産党資料の書誌的研究。（以上，前年度の継続）

#### 日本研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ①『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題』の作成。（以上，前年度の継続）  
②日本関係洋書解題の目録の作成。

#### 朝鮮研究委員会

【研究・調査】 ①李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

(研究会の開催)

②漢字の朝鮮音韻の研究・調査

#### 中央アジア・イスラム研究委員会

【研究・資料の収集・整理】 ①『イスラム革命関係小冊子類解題』の作成。

②イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。(以上、前年度の継続)

4月25日 [シンポジウム]「ワクフ」岡崎正孝, 愛宕あもり, 林佳世子

6月6日 三沢伸生 「オスマン朝下の東アナトリアにおける遊牧民」

7月4日 黒木英充 「19世紀アレppoにおける騒乱と社会変動」

10月17日 広田 淳 「ハルジー朝アラール・ウッディーン政権の成立：「ヒンドゥースターン」を中心に」

11月14日 赤松立太 「エスニシティ再考」

12月12日 桜井啓子 「イラン革命と公教育」

1月23日 長谷部史彦 「カイロの食糧暴動とマムルーク朝の政策：14世紀末-15世紀初頭を中心として」

4月23日 J. E. Philips 「Malam Haliru's History of Wurno」

③中央アジア・トルコ諸民族の研究。

④イスラム社会の構造の研究。

⑤隊商貿易史の研究。

⑥トルコ日本両国の近代化の比較研究。

#### チベット研究委員会

【資料の整理・研究】 ①東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。

②チベット学に関する研究会の開催。(以上、前年度の継続)

#### 南方史研究委員会

【資料の整理・研究】 ①東洋文庫所蔵南アジア史関係資料(辻文庫図書)の整理・

研究とその分類目録の作成。(以上、前年度の継続)

### iii 特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目 的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

(1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者(前チベット自治区師範大学(ラサ)チベット語教授) Sonam Chonphel 氏の協力の下に下記の作業を進めた。

- ①東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂の資料として、各文献の奥書きを収集し解読・分析を進めた。
- ②現代チベット語について口語資料を収集し、記述的研究を進めた。
- ③トカン『一切宗義』「ゲールク派」の章の邦訳・訳註を準備した。
- ④トカン『一切宗義』「ニンマ派」「チョナン派」「ガーダム派」「モンゴル・コータン・シャムバラの仏教」各章のテキストの整備と機械処理を行った。
- ⑤サキャ・バンディタ『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。

(2) チベット文献の収集・整理

区 分	西藏関係図書	西藏蔵外文献
数 量	15冊	2,179枚

(3) 研究成果の刊行

- ①『Texts of Tibetan Folktales(VI)』(『チベット民話集(VI)』) B 5判 1冊 (刊行済)
- ②『インディア・オフィス・ライブラリー所蔵中央アジア出土「大乘涅槃經」梵文断簡集』 B 5判 1冊 (刊行済)
- ③『チベット特別調査研究年次報告』 A 5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究（近代中国研究委員会）

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

### 【事業内容】

- (1) 共同利用研究
- (2) 情報交換および参考業務（近代中国研究事務室において常時遂行）
- (3) 図書資料の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	1,132冊	87冊

#### (4) 研究成果の刊行

- ①『近代中国研究彙報 第10号』 A5判 1冊 （刊行済）

## iv 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。昭和62年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

### 第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄

古代史：飯尾秀幸，宇都木 章，越智重明

唐代史（敦煌文献）：榎 一雄，池田 温，菊地英夫，土肥義和，藤枝 晃  
松本 明

宋代史：石川重雄，草野 靖，佐伯 富，斯波義信，周藤吉之，竺沙雅章，千葉  
昶，中嶋 敏，渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺 宏

近代中国：市古宙三，河鱈源治，滋賀秀三，田中正俊，丁 果，本庄比佐子  
矢沢利彦

### 第2部 日本研究

日本：石塚晴通，岩生成一，海野一隆，亀井 孝，酒井憲二，佐竹昭広  
田中時彦，朽尾 武，鳥海 靖，林 望，柳田征司

### 第3部 東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎 一雄，石橋崇雄，岡田英弘，神田信夫

C. A. ダニエルズ, 松村 潤

朝鮮：河野六郎, 末松保和, 田川孝三, 武田幸男, 古屋昭弘, 森岡 康

#### 第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎 一雄, 梅村 坦, 片山章雄, 後藤 明, 小松久男  
佐藤次高, 清水宏祐, 志茂碩敏, 永田雄三, 花田宇秋  
本田實信, 護 雅夫, 八尾師 誠

チベット：榎 一雄, 川崎信定, 北村 甫, 福田洋一, 松濤誠達, 山口瑞鳳  
ソナム・チュンペール

#### 第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄, 岩生成一, 榎 一雄, 後藤均平, 原 實, 三根谷 徹  
山崎元一, 山本達郎

## 2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第69巻第1・2号 昭和63年1月刊 A5判 192頁

『東洋学報』 第69巻第3・4号 昭和63年3月刊 A5判 234頁

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No. 45 1987年刊  
B5判 86頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

『スタイン蒐集チベット語文献解題目録』第12分冊 昭和63年3月刊 B5判 187  
頁

『Texts of Tibetan Folktales (VI)』(『チベット民話集(VI)』 昭和63年3月刊 B  
5判 255頁

『インド省図書館所蔵中央アジア出土大乘涅槃經梵文断簡集』 昭和63年3月刊 B  
5判 117頁

『チベット特別調査研究年次報告(昭和62年度版)』 昭和63年3月刊 A5判 20

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第10号 昭和63年3月刊 A5判 94頁

南方史研究委員会 (昭和62年度特別研究資料出版担当)

『東洋文庫所蔵インド関係外国語図書分類目録(II)』 昭和63年3月刊 B5判  
378頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録—和書・中国書・朝鮮書・安南書・近代中国和書中国書—』

第35号 昭和63年3月刊 B5判 141頁

『東洋文庫書報』第19号 昭和63年3月刊 A5判 102頁

『東洋文庫年報』昭和61年度版 昭和62年11月刊 A5判 57頁

『Tunhuang and Turfan Documents III—Contracts (A)(B)—』

昭和63年3月刊 A4判 247+155頁

『ペルシア語文化圏の成立と展開に関する総合的研究』(昭和62年度文部省科学研究

費補助金・総合研究(A) 研究成果報告書) 昭和63年3月刊 B5判 50頁

### 3. 講演会

#### 春期 東洋学講座

第373回 昭和62年5月19日(火)

「敦煌・吐魯番発見の文書によって知ら  
れる均田制」

東洋文庫研究員  
東京大学名誉教授 山本達郎氏

第374回 昭和62年5月26日(火)

「十六世紀末までの台湾」

東洋文庫研究員  
日本学士院会員 岩生成一氏

第375回 昭和62年6月2日(火)

「故宮博物院(台北)所蔵の梁職貢図につ  
いて」

東洋文庫理事長  
東京大学名誉教授 榎 一雄氏

第376回 昭和62年6月9日(火)

「ガンダーラにおける仏鉢の由来」

京都大学教授 桑山正進氏

## 秋期・東洋学講座

- |       |                                     |                     |       |
|-------|-------------------------------------|---------------------|-------|
| 第377回 | 昭和62年10月27日(火)<br>「淡新檔案を通じて見た清代の訴訟」 | 東洋文庫研究員<br>東京大学名誉教授 | 滋賀秀三氏 |
| 第378回 | 昭和62年11月10日(火)<br>「秦の天下統一について」      | 東洋文庫研究員<br>九州大学名誉教授 | 越智重明氏 |
| 第379回 | 昭和63年11月17日(火)<br>「古典インドの誓い」        | 東洋文庫研究員<br>東京大学教授   | 原 実氏  |
| 第380回 | 昭和62年11月24日(火)<br>「清初史跡の二三について」     | 東洋文庫研究員<br>明治大学教授   | 神田信夫氏 |

## 特別講演会（不定期）

- |     |   |                   |             |
|-----|---|-------------------|-------------|
| 第1回 | 昭和62年4月25日(土)<br>「ダマスカス歴史文書センター—その所蔵文書と利用方法—」       | シリア歴史文書センター所長     | グード・アルハキーム氏 |
| 第2回 | 昭和62年5月2日(土)<br>「文革以後における明清社会経済史研究の現状」              | 中国社会科学院歴史研究所副研究員  | 姜 鎮慶氏       |
| 第3回 | 昭和62年5月9日(土)<br>「中国文化の継承と展望」                        | 中国北京大学歴史系教授       | 鄧 広銘氏       |
| 第4回 | 昭和62年6月6日(土)<br>「コータン文献数点の年代とコータン史上の若干の問題」          | ”<br>”            | 張 広達氏       |
| 第5回 | 昭和62年10月3日(土)<br>「新たに発見された龍鳳期、朱元璋によって譏造せられた魚鱗冊について」 | 中国社会科学院歴史研究所助理研究員 | 樂 成顕氏       |

## 4. 研究会（東洋文庫談話会）

- |               |                         |                     |       |
|---------------|-------------------------|---------------------|-------|
| 昭和63年2月13日(土) | 「近代中国華北農村社会における看青・打更再考」 | 金沢大学助教授<br>文部省内地研究員 | 内山雅生氏 |
| 昭和63年2月27日(土) | 「敦煌における教学仏教の系譜」         | 龍谷大学教授<br>私学研修教員    | 上山大峻氏 |

## 5. 研究者養成

中央アジア研究 片山章雄 「古代トルコ民族史の研究」

中国研究 飯尾秀幸 「中国古代の国家支配と郷里における社会的諸関係との関連」

中国研究 石川重雄 「宋代仏教社会経済史の研究」

## 6. 学術情報提供

### i 研究者の交流及び便宜供与サービス

#### (1) 国内研究者の長期受入

上山大峻 私学研修教員  
龍谷大学教授

「東洋文庫所蔵の敦煌写本資料及びチベット資料の調査・研究」(昭和62年度1ヶ月)(私学研修福祉会の要請)

内山雅生 文部省内地研究員  
金沢大学助教授

「解放前中国農村社会構造の社会経済史研究」(昭和62年度下半期)(文部省高等教育局の依頼)

#### (2) 外国人研究者の長期受入

姜 鎮慶 中国社会科学院歴史研究所副研究員

「明清社会経済史研究 ～特に土地制度、税制、商品流通問題を中心として～」(昭和60年7月以降1ヶ月間)(自費延長11ヶ月)(国際交流基金の招聘)(昭和62年6月5日帰国)

丁 果 中国上海師範大学歴史系助手

「近代日中関係及び日本近現代史の研究」(昭和59年10月以降受入中)(中国政府派遣)

樂 成顕 中国社会科学院歴史研究所助理研究員

「明清社会経済史研究～特に魚鱗冊制度を中心として～」(昭和62年5月11日～10月10日の5ヶ月間)(日本学術振興会の依頼)

Dad al-Hakim シリア・歴史文書センター所長

「オスマン朝時代におけるシリア社会の史的研究」(昭和62年4月19日～5月18日の30日間)(日本学術振興会の招聘)



Sonam Choephel 東洋文庫招聘研究員 「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語辞典』の編纂協力」 (昭和60年3月以降3ヶ年間)

(3) 研究者の派遣

(4) 外国人研究者への便宜供与

Australia

B. H. Fuicber Australian National Univ.

China (People's Republic)

鄧 広銘	北京大学歴史系教授
張 広達	〃 〃 〃
李 開元	〃 〃 講師
賀 世哲	敦煌研究院歴史考古研究所々長・研究員
劉 永増	〃 資料室次長・研究員
阮 芳紀	中国社会科学院歴史研究副編輯
王 学莊	〃 近代史研究所副研究員
齊 福霖	〃 〃 〃
王 慶成	〃 〃 〃
孫 猛	中国深圳大学副教授
逢 先知	中共中央文献研究室教授
陳 得芝	南京大学歴史系元史研究室主任、教授
李 栄昌	上海社会科学院経済研究所所長・副研究員
王 威	〃 〃 研究員
霍 松林	西安市陝西師範大学教授
巴達栄嘎	内蒙古社会科学院研究員
閻 崇年	北京社会科学院歴史研究所副所長・研究員
王 永厚	中国農業科学院図書館館員
路 遙	山東大学歴史系教授
汪 裕堯	中共中央文献研究室副教授
王 淇	中共中央党史研究室教授
傅 禄永	中国社会科学院外事局アジア・アフリカ処通訳
孫 静	北京大学中文系 (教授)
閻 徳民	復旦大学 (歴史系 教授)
李 之檀	中国歴史博物館
劉 桂英	〃 〃

沈 德余	中国歴史博物館
何 忠礼	杭州大学副教授
楼 鑑明	復旦大学中国語系講師
牛 大勇	北京大学歴史系講師
薛 英	北京図書館館員
杜 長庚	上海社会科学院
确精礼布	内蒙古大学蒙古語文研究所
烏 云	” ”

China (Taiwan)

黄 英甫	国立成功大学外国語文系副教授
張 吳憲	国立中央研究院 (研究員)
汪 雁秋	国立中央図書館々員
嚴 鼎忠	” ”
莊 吉堯	国立故宫博物館々員

France

クロード・ジャック	パリ大学学術高等研究院教授
Von V. Charlotte	” ” ”

Hong kong

F. H. H. King	Prof. of Economic History, Univ. of Hong Kong.
林 啓彦	香港 Bpist college 専任講師

India

R. Mukherjee	Univ. of Calcutta, Inst. of History.
Mahua Rawat	Assistant Prof., Center for East Asian Language, School of Language, Jawaharlal Nehru Univ., New Delhi.
V. N. Misra	Prof., Deccan College, Univ. of Poona.

Iran

Mohammad Reza ale Mohammad	テヘラン大学芸術学部助教授
-------------------------------	---------------

Korea

李 柄柱 嶺南大学校文理大学史学科教授  
 安 秉燦 国立中央図書館館員  
 金 甲周 東国大学校教授  
 Park Hwan Prof., Suwon Univ.

Syria

Dad al-Hakim Prof., Center of Historical Documents,  
 Damascus.  
 J. al-Barudi Minister of the Syrian Embassy.

United Kingdom

P. J. Bailey Dr., Lecturer, Univ. of Edinburgh.  
 Hilary Chung Lecturer in Chinese Literature, Durham Univ.  
 H. A. Dodd Librarian, British Library Oriental Collections.

U. S. A.

E. O. Reiman Associate Prof., Department of Foreign  
 Languages, Arizona State Univ.  
 Kim Chin Prof. of Law, California Western School of  
 Law.  
 Susaw Napuin (Prof.) Univ. of Pennsylvania.  
 Victortl Maiyer Associate Prof., Univ. of Pennsylvania.  
 L. Kwontan Univ. of Chicago.

ii 研究会等への会場提供サービス

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	12	16	13	11	0	8	10	11	6	6	11	11	115回
参加人員	225	422	299	144	0	108	206	296	101	112	124	115	2,152人

iii 研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス

東洋学報第69巻1・2号	500部
唐代詔勅目録	140部

(なお、「図書資料の閲覧(協力)サービス」「研究資料複写サービス」の事業報告については、『II. 図書事業』の部に、便宜上、掲載した。)

## 7. 職員の研究業績

期間：昭和62年4月1日～昭和63年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書（共著） ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演・研究発表 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

池田 温

②「Tunhuang and Turfan Documents concerning Social and Economic History. III Contracts. (co-edited with Tatsuro YAMAMOTO)」(Toyo Bunko, 1987, A, 211p., B, 139pl.), ③「前近代東亜における紙の国際流通」(『東方学会創立四十周年記念東方学論集』, 57～73頁, 1987年6月), 「敦煌の便穀歴」(『日野開三郎先生頌寿記念論集 中国社会・制度・文化史の諸問題』(355～389頁, 中国書店, 1987年10月), ④「発展期を迎えた敦煌吐魯番研究—国際敦煌吐魯番学術会議に出席して」(出版ダイジェスト1223号, 1987年10月11日, 3面), ⑤「磯波護著『唐代政治社会史研究』」(中国—社会と文化2, 274～278頁, 1987年6月), 「中国古籍, 文献学関係近刊数種簡介」(センター通信28, 3～7頁, 1987年6月), 「Tatsuro YAMAMOTO & Yoshikazu DOHI(co-ed.)『Tunhuang and Turfan Documents concerning social and Economic History. II Census Registers』」(史学雑誌96—10, 114～115頁, 1987年10月), ⑦「1944年莫高窟土地廟塑像中發現文献管見」(国際敦煌吐魯番学術会議(香港), 1987年6月25日)「採訪使考」(第一屆國際唐代学術會議(台北), 1988年1月31日), ⑧「文物出版社頌」(東方74, 2～8頁, 1987年5月), 「岡崎敬『中国の考古学 隋唐編』序」(同朋舎, i～iii頁, 1987年6月), 「三上次男氏の訃」(日本歴史472, 127頁, 1987年9月), 「『唐代詔勅目録』はしがき」(東洋文庫, i～iii頁, 1987年), 「今年私はこれをやりたい, 国内に存する敦煌写本の調査目録」(中外日報1988年1月3日, (25)面), 「特集“東亜古代国制試探”後記」(東洋文化68, 239頁, 1988年3月)。

石川 重雄

⑤「中国社会科学院歴史研究所・宋遼金元史研究室点校『名公書判清明集』上・下」(立正大学東洋史論集1, 立正大学東洋史研究会, 1988年3月), ⑦「明版清明集にみえる僧道関連記事について—宋代の判例にみる僧道の位置—」(立正大学史学会月例研究会, 1987年12月15日), 「宋代江南寺院の諸形態」(仏教史学会第三十八回学術大会, 1987年10月25日, 要旨: 仏教史学会第三十八回学術大会シンポジウム・研究発表要旨, 1987年10月)。

石橋 崇雄

②『新しい中国の夜明け—毛沢東の長征—』編集参与, <中国の歴史12> (中央公論社, 1987年4月, 128頁), ③『「宮中檔康熙朝奏摺」(満文諭摺)収録の覚羅満保奏摺—康熙五十一年正月~九月—』(中国近代史研究5, 48~75頁, 1987年4月), 『「唐土名勝図会」について』(『唐土名勝図会・全六巻合冊』複製版・解説, 30~47頁, ぺりかん社, 1987年5月), 「清朝「包衣」名称的解釈 (*Booi in the Ch'ing Dynasty*)」(国立政治大学 辺政研究所年報 18, 197~208頁, 1987年10月), 『欽定八旗則例』考』(『第一届中国域外漢籍国際学術会議論文集』, 国文学文献館, 573~587頁, 1987年12月), 「『戸部成語』(『清文備考』所収) 満洲語索引 (A~G) —『六部成語』総合索引への一環として—」(国士館大学文学部 人文学会紀要20, 27~44頁, 1988年1月), ⑤「『東北』部を増補した中国歴史小事典 (星斌夫『増補中国地名辞典』)」(東方78, 26~27頁, 1987年9月), ⑦「『han i araha manju gisun i buleku bithe, (御製清文鑑)』に見える満文経書について—清朝「繙訳科学」研究の一環として—」(第二回中国域外漢籍国際学術会議, 1987年12月18日)。

梅村 坦

【昭和61年度】 ① Japanese Studies on Inner Asian History 1973-1983, ASIAN STUDIES IN JAPAN, 1973-1983, Part II-16. The Centre for East Asian Cultural Studies(1987)22p., ③「ウイグル文書“SJ Kr. 4/638” —婚礼・葬儀費用の記録—」(立正大学教養部紀要 20, pp. 35~87, 1987. 2.25), 「イナンチー族とトゥルファン—ウイグル人の社会」(東洋史研究 45-4, pp. 90~120, 1987. 3. 31), 「ウイグル文契約文書の総合的研究」(中央ユーラシア史の再構成—新出史料の基礎的研究— <昭和61年度科学研究費 [総合研究A] 研究成果報告書>, pp. 1~35, 1987. 3, [共著者: 山田信夫, 小田寿典, 森安孝夫]。

【昭和62年度】 ③「北庭故城随想」(中国西部文学 [烏魯木齊] 1988-1, pp. 95-98, 1988. 1. 5), ④「日本の中亜史研究之歴史和動向」(中亜研究 [新疆社会科学院中亜研究所] 1987-4, pp. 1-7, 1988. 1), ⑦「日本の中亜史研究之動向」(中央民族学院民語二系講演会, 1987. 6. 15, 北京), 「現代日本文学私見: 歴史学との関連において」(昌吉回族自治州文聯座談会, 1987. 7. 14, 昌吉), 「日本の中亜史研究之歴史和動向」(新疆社会科学院中亜研究所・歴史研究所合同座談会, 1987. 11. 25, 烏魯木齊), 「天山の北と南」(新疆日本語学会1988年会, 1988. 1. 17, 烏魯木齊)。

海野 一隆

③「ファルク地球儀伝来の波紋」(有坂隆道編『日本洋学史の研究』VIII, 9~34頁, 創元社, 1987年4月), 「北米における江戸時代地図の収集状況—ビーンズ・コレクションを中心として—」(人文地理39-2, 16~41頁, 人文地理学会, 1987年4月), “European Cartography of Korea in the Sixteenth and Seventeenth Centuries” (韓国科学史学会誌, vol. 9, No. 1, pp. 109~116, 1987年12月), 「粟散辺土」と「大日本国」—中世日本人の国土観— (大阪明浄女子短期大学紀要2, 1~17頁, 1987年12月), ⑦“Government Cartography in Sixteenth Century Japan” (XIIth International Conference on the History of Cartography, Paris, 1987年9月9日), ⑧「マテオ・リッチと章潢—世界地図をめぐる—」(昭和61年度秋期東洋学講座講演要旨) (東洋文庫書報18, 106~107頁, 1987年3月), 「博物志校箋(1) (補注: 大秦・交趾・五岳・黒水)」(東方学報 京都59, 565頁, 1987年3月), 「地図: 世界・日本(色刷図版構成解説)」(『日本大百科全書』15, 233~241頁, 小学館, 1987年4月), 「石水博物館古地図展を観て」(月刊古地図研究18-3, 11頁, 日本地図資料協会, 1987年5月), 「世界図(項目解説・色刷図版解説)」(『国史大辞典』8巻, 279頁, 対284~対285(計6)頁, 吉川弘文館, 1987年10月)。

榎 一雄

③「『魏志』「倭人伝」とその周辺—テキストを検討する—」(十五) (季刊邪馬台国31 (1987年春号), 191~205頁, 梓書院, 1987年4月), 「同上」(十六) (季刊邪馬台国32 (1987年夏号), 232~241頁, 梓書院, 1987年7月), 「同上」(十七) (季刊邪馬台国33 (1987年秋号), 235~249頁, 梓書院, 1987年10月), 「職貢図の起源」(『東方学会創立四十周年記念 東方学論文集』, 173~193頁, 東方学会, 1987年6月), ⑤「江上波夫編『中央アジア3史』」(歴史と地理387, 42~57頁, 山川出版社, 1987年11月), 「同上正誤表」(歴史と地理389, 49頁, 山川出版社, 1988年1月), 「グッドリッチ教授の訃」(東洋学報69-1・2, 100~116頁, 東洋文庫, 1988年1月), ⑦「故宮博物院(台北)所蔵の梁職貢図」(東洋文庫春季東洋学講座, 1987年6月2日), ⑧「「海のシルクロード」を求めて(海のシルクロードインタビュー2), シルクロードは人々が築き上げた通商ネットワークだ」(みつびし261, 16~17頁, 三菱銀行, 1987年8月), 「勝共運動の本旨」(『私のみた勝共運動』, 145~147頁, 国際勝共連合, 1987年12月), 「アフロ・ユーラシア大陸における文化交流とシルクロード(1)」(ガルーダ・インドネシア航空機内誌12, 6~9頁, 1988年), 「同上」(2)(ガルーダ・インドネシア航空機内誌13, 15~16頁, 1988年), 「1987年読書アンケート」(みすず30-1, 18~19頁, みすず書房, 1988年1月), 「読書の

現在」(『読書アンケート1980—1986年』, 35・84・91・199頁, みすず書房, 1988年4月)。

岡田 英弘

③“The Fall of the Uriyangqan Mongols” (MONGOLIAN STUDIES, Volume X, pp. 49-57, Mongolia Society, 1988-87), ④「デニス・サイナー教授小傳」(東方学74, 136—143頁, 東方学会, 1987年7月), 「第30回国際アルタイ学会」(通信61, 37—40頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1987年11月), ⑤「福永光司著『道教と古代日本』」(文化会議217, 30—32頁, 日本文化会議, 1987年7月), 「江村洋著『中世最後の騎士—皇帝マクシミリアン一世伝—』」(文化会議218, 36—38頁, 日本文化会議, 1987年8月), ⑦“The Chakhar Shrine of Eshikhatur” (The 30th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, 1987年6月22日, Bloomington, Indiana, USA), 「中央アジアを考える—歴史と現実—」(エグゼクティブ・アカデミー, 1987年7月15日, 全文: エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 1—31頁, 1987年9月18日), 「日本人の内なる非国際性を越えて」(日本文化会議カルチャー・セミナー, 1987年7月16日), 「第29回国際アルタイ学会 (PIAC, 1986年9月, Tashkent, USSR)」(第24回野尻湖クリルタイ, 1987年7月20日), “Origin of the Ordos Shrine of Chinggis Khan” (The 5th International Congress of Mongolists, 1987年9月, Ulan Bator), “Batu Möngke Dayan Khan in the Biography of Altan Khan” (内蒙古大学蒙古学国際学術討論会, 1987年9月, 呼和浩特), 「アジアのなかの邪馬台国」(立川朝日カルチャー・センター, 1987年10月13日), 「建国以前の日本と中国」(古代を学ぶ会, 1987年10月21日), “The Lost Manchu Original of Meng-ku Shih Hsi P'u by Lomi” (第二届中国域外漢籍国際学術会議, 1987年12月19日, 台北), ⑧「孤独な国際化戦争」(文化会議216, 10—11頁, 日本文化会議, 1987年6月, 匿名時評)。

越智 重明

①『戦国秦漢史研究 I』(中国書店, 1988年2月, 553頁), ③「春秋戦国時代の田制・田税制」(久留米大学比較文化研究所紀要1, 1—86頁, 久留米大学比較文化研究所, 1987年5月), 「信西古楽図をめぐって」(久留米大学比較文化研究所紀要3, 1—66頁, 久留米大学比較文化研究所, 1988年3月), 「明治前期の民間芸能一斑」(久留米大学論叢36—3, 257—272頁, 久留米大学, 1988年3月), ⑦「秦の天下統一について」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1987年11月10日)。



川崎 信定

③「インド・仏教思想における《楽》」(比較思想研究13, 13~22頁, 比較思想学会, 1987年4月), 「バヴィヤの『中観心論』にみられる『一切智』説(-) (仏教学24, 1~20頁, 仏教思想学会, 1988年3月), “The Mimāṃsā chapter of Bhavya’s Madhyamaka-hṛdaya-kānikā—Sanskrit and Tibetan Texts—(3) with the Sarvajña Chapter,” (筑波大学哲学・思想学系論集13, 1~42頁, 筑波大学 哲学・思想学系, 1988年3月), ⑧「下町説法・死んだらどこへ行くか—チベットの『死者の書』について—」(柴又84, 18~26頁, 帝釈天題経寺, 1988年3月)。

神田 信夫

【昭和61年度】 ③「清太宗皇太極和毛文龍的議和」(社会科学輯刊1987—1, 63~69頁, 遼寧社会科学院・遼寧省哲学社会科学学会聯合会, 1987年1月), ⑤「清太宗皇太極和毛文龍的議和」(清史国際學術討論会, 大連, 1986年7月26日), ⑧「福陵再訪」(季刊東西交渉5—3, 10頁, 井草出版, 1986年9月), 「漢籍と日本」(サンケイ新聞, 1986年10月24日夕刊), 「瀋陽にて湖南博士を憶う」(湖南7, 17頁, 内藤湖南先生顕彰会, 1987年2月)。

【昭和62年度】 ②“Studies of Manchu History in the Ch’ing,” (Acta Asiatica No. 53, 東方学会, 1988年2月, 119頁), ③「聖武記雜考」(『東方学会創立四十周年記念 東方学論集』, 305~320頁, 東方学会, 1987年6月), 「いわゆる崇徳会典について」(『東洋法史の探求—島田正郎博士頌寿記念論集』, 3~20頁, 汲古書院, 1987年9月), ④“Japanese Studies in Ch’ing History, Particularly Those Based on Manchu Source Materials” (Acta Asiatica 53, 83~113頁, 東方学会, 1988年2月), ⑤「島田正郎著『明末清初モンゴル法の研究』」(創文1987—6, 25~28頁, 創文社, 1987年6月), ⑦「日本清史研究的現状与前瞻」(遼寧社会科学院, 瀋陽, 1987年10月16日), 「清初史跡の二三について」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1987年11月24日, 要旨: 東洋文庫書報19, 71~72頁, 1988年3月), 「満文体の四書と書経」(第二回中国域外漢籍国際學術会議, 台北, 1987年12月18日), ⑧「序」(『唐土名勝図会』, ペリかん社, 1987年5月), 「満洲写真帖のこともど」(湖南8, 27~28頁, 内藤湖南先生顕彰会, 1988年1月)。

小松 久男

⑤「中村廣治郎・森本公誠・佐藤次高・板垣雄三編, 『講座イスラム』全4巻」(史学雑誌96—7, 95~96頁, 1987年7月), 「内山昌之『スルタ・ノガリエフの夢』について」(『地域研究ブックレビュー』5, 28~34頁, 1988年3月), 「Mehmet

Saray, Rus İğgali Devrinde Osmanli Devleti ile Türkistan Hanliklar, arasinda-ki Siyasi Münasebetler (1775-1875), Istanbul, 1984) (バルカン・小アジア研究 14, 107~113頁, 東海大学バルカン・小アジア研究所, 1988年3月)。

後藤 明

- ①『世界史 (高校教科書)』[中村英勝他共著] (東京書籍, 1988年3月, 379頁),  
③「イスラームは歴史のなかで何を棄てたか」(片倉もと子編『人々のイスラーム』, 143~195頁, 日本放送出版協会, 1987年9月), ⑦「イスラーム世界の展開」(山形県村山地区高校社会科教員研修会, 1987年5月19日), 「中東社会の結婚と離婚」(山形県調停委員会総会記念講演, 1987年7月17日), 「ウマイヤ朝カリフ・マルワーンを支えた軍事力」(第6回山形史学会大会, 1987年8月21日), 'Marwan b. al-Hakam, His Supporters and His Bayt' (The Forth International Conference of History of Bilad al-Sham, 1987年11月27日), 「第4回大シリアの歴史国際研究集会に参加して」(日本オリエント学会月例講演会, 1988年3月29日), ⑧「メディナのイスラーム運動」(高校通信・東書・世界史・日本史, 134, 6~7頁, 東京書籍, 1987年6月), 「独自の文明の体系」(中東研究, 1988-1, 37頁, 中東調査会, 1988年1月)。

佐伯 富

- ①『中国塩政史の研究』(法律文化社, 1987年9月30日, 930頁), ③「明代における行塩地問題—河東塩を中心にして—」(『東方学会創立四十周年記念 東方学会論集』, 381~392頁, 1987年6月), 「宋代の贖贈について」(『蔣慰堂先生九秩栄慶論文集』, 777~798頁, 台北・国立中央図書館, 1987年11月), ⑦「中国史上における塩の問題」(龍谷大学史学会大会, 1987年11月27日)。

佐竹 昭広

- ①『万葉集・6』(小島, 木下と共著, 完訳日本の古典7, 424頁, 小学館, 1987年9月), ③「説話の原則—歴史叙述と物語叙述—」(『日本文学講座』3, 100~117頁, 大修館書店, 1987年7月), 「ふるき都を立出て雨—謎とき『本朝二十不孝』—」(文学56-1, 1~10頁, 岩波書店, 1988年1月)。

佐藤 次高

- ③「世界史のなかの税—土地税ハラージュを基本に」(週刊朝日百科『日本の歴史』51, 221~222頁, 朝日新聞社, 1987年4月), 「現代エジプトの宗教事情—カイロ・

タンター・ファイユームー」(片倉もと子編『人々のイスラーム—その学際的研究—』, 87~101頁, 日本放送出版協会, 1987年9月), 「ジャバラー現代に生きるシリアの海岸都市」(歴史と地理384, 19~26頁, 山川出版社, 1987年8月), 「イクター制と現代アラブ社会」(MAYDAN No. 13, 4~5頁, 国際大学・中東研究所, 1987年9月), ⑦「巡礼—その社会経済的側面」(シンポジウム「巡礼—Part II」1986年10月10日, 要旨: 中近東文化センター研究会報告 No. 8, 110~125, 277~286頁, 1988年3月), 「イスラーム史における十字軍」(シンポジウム「十字軍」, 中近東文化センター, 1987年9月26日), 「イスラーム世界の人と生活—歴史と現代の間—」(岩手県高教研社会・歴史部会研究会, 1987年10月23日)。

### 酒井 憲二

②『歌舞伎評判記集成第二期第一巻』(共編, 岩波書店, 1987年11月, 573頁), 『同第二巻』(同, 1988年3月, 606頁), 『寛永諸家系図伝第十一』(校訂協力, 続群書類従完成会, 1987年11月, 250頁), ③『『甲陽軍鑑』の後加部分の言語的特徴』(文学55~6, 46~59頁, 岩波書店, 1987年6月), ⑧「書誌学, 日本」(図書館情報学ハンドブック, 丸善, 1988年3月, 77~80頁), 「岩崎文庫貴重書書誌解題稿(四)」(分担執筆・東洋文庫書報19, 1~16頁, 1988年3月)。

### 志茂 碩敏

②『ペルシア語文化圏の成立と展開に関する総合的研究』(昭和61・62年度文部省科学研究費補助金・総合研究(A)研究成果報告書, 東洋文庫, 1988年3月, 50頁)。

### 滋賀 秀三

③「淡新檔案の初歩的知識—訴訟案件に現われる文書の類型」(『東洋法史の探究—島田正郎博士頌寿記念論集』, 253~317頁, 汲古書院, 1987年9月), 「中国法文化の考察—訴訟のあり方を通じて」(日本法哲学会編『東西法文化: 法哲学年報1986』, 37~54頁, 有斐閣, 1987年10月), 「伝統中国における法源としての慣習—ジャン・ボダン協会への報告」(国家学会編『国家学会百年記念: 国家と市民』第3巻, 341~360頁, 有斐閣, 1987年11月), 「清代州県衙門における訴訟をめぐる若干の所見—淡新檔案を史料として」, (法制史研究37, 37~61頁, 法制史学会, 1988年3月), ⑤「梅原郁訳注『名公書判清明集』」(法制史研究37, 220~226頁, 法制史学会, 1988年3月)。

関野 雄

③「華南出土の異型勺」(『東方学会創立四十周年記念 東方学論集』429～445頁, 1987年6月), ⑥「新疆ウイグル自治区博物館編『新疆ウイグル自治区博物館』(『中国の博物館』第二期1)」(翻訳監修, 町田章らと共訳, 講談社, 1987年11月, 239頁), 「雲南省博物館編『雲南省博物館』(『中国の博物館』第二期2)」(翻訳監修, 町田章らと共訳, 講談社, 1988年2月, 218頁), 「中国社会科学院考古研究所編著『新中国的考古發現和研究』(『新中国の考古学』)」(監訳, 太田侑子らと共訳, 平凡社, 1988年2月, 614頁), ⑧「三上先生の御霊に捧ぐ」(考古学雑誌73—2, 136～138頁, 日本考古学会, 1987年12月), 「すばらしい人類に未来を」(反核考古学研究者の会編『戦争と平和と考古学—人類史の未来のために』, 96～103頁, 1988年1月)。

武田 幸男

①『広開土王碑原石拓本集成』(東京大学出版会, 1988年3月, 270頁), ③「広開土王碑の拓本を求めて」(朝鮮学報126, 1～18頁, 朝鮮学会, 1988年1月), 「碑文解釈の鍵—広開土王碑おぼえがき(上)」(UP184, 1～5頁, 1988年2月), 「伝承のなかの原石拓本—広開土王碑おぼえがき(下)」(UP185, 8～12頁, 1988年3月), ⑦「広開土王碑の拓本を求めて」(朝鮮学会第38回大会公開講演, 1987年10月3日, 要旨: 朝鮮学報126, 64頁, 1988年1月)。

C. A. ダニエルズ

③「替玉受験(中国の社会・風俗3)」(千慮一得16, 1～4頁, 1987年6月), 「婚姻(中国の社会・風俗4)」(千慮一得17, 1～4頁, 1987年11月), 「食糧暴動と主食(中国の社会・風俗5)」(千慮一得18, 1～6頁, 1988年3月), 「林本源の経済活動私見」(林本源研究会会報創刊号, 2頁, 1987年9月)。

竺沙 雅章

②「『中国書道全集』第5巻「宋I」, 第6巻「宋II・金・元」, 第7巻「明」」(図版解説, 中田勇次郎編, 平凡社, 1987年6月, 10月, 1988年1月, 5—168～69頁, 181～82頁, 208～12頁, 6—186～88頁, 193～95頁, 7—200～03頁, 206頁), ③「宋代の術士と士大夫」(『東方学会創立四十周年記念東方学論集』, 501～55頁, 東方学会, 1987年6月), 「宋元仏教における庵堂」(東洋史研究46—1, 1～28頁, 東洋史研究会, 1987年6月), ⑦「宋の太祖と太宗」(シティフォーラム, 京都市社会教育センター, 1987年11月14日), ⑧「トルファン文書の書式」(『日本の古代』

第14卷月報, 1～6頁, 中央公論社, 1988年3月)

鶴見 尚弘

③「南京図書館所蔵, 康熙十五年丈量長洲県魚鱗図冊一種について」(『東方学会創立四十周年記念 東方学論集』, 517～531頁, 東方学会, 1987年6月), ⑤「森正夫「明初の籍没田について—江南官田形成過程の一側面」」(法制史研究37, 257～259頁, 1988年3月)。

朽尾 武

③「玉造小町壮衰書研究—幸地嚙上詠三賦考—」(成城文芸122, 1～21頁, 成城大学文芸学部, 1988年3月)。

鳥海 靖

【昭和61年度】 ②『国史大辞典第7巻』(共編, 吉川弘文館, 1986年11月, 986頁), ③「原敬一政党政治が生んだ〈平民宰相〉の実相」(別冊歴史読本・秘史内閣総理大臣11—2, 50～55頁, 新人物往来社, 1986年4月), 「明治立憲制」(日本歴史学会編『日本史研究の新視点』, 254～274頁, 吉川弘文館, 1986年11月), 「教養学部」(東京大学百年史編集委員会編『東京大学百年史 部局史(四)』1～288頁, 東京大学, 1987年3月), ⑦「パリ平和会議における人種差別撤廃問題と日本—東と西の狭間で—」(東洋文庫春季東洋学講座 1986年5月27日, 要旨: 東洋文庫書報18, 93～95頁, 1987年3月), ⑧「今月の日本史」(歴史読本31—8, 32—3, 244～245頁, 新人物往来社, 1986年5月, 1987年2月), 「明治立憲制の理解をめぐる」(学図教科研究・社会9—5〈No.84〉, 1～4頁, 学校図書, 昭和61年11月)。

【昭和62年度】 ②『国史大辞典』第8巻(共編, 吉川弘文館, 1987年10月, 970頁), ③「近代日本のディレンマ—人種差別撤廃問題」(文化会議222, 34～37頁, 日本文化会議, 1987年12月), ⑧「近代百年と三代の天皇」(歴史と旅14—9, 36～41頁, 秋田書店, 1987年6月), 「歴史理解と国際理解」(『NHK 学園』25—3, 2～3頁, 日本放送協会学園高校, 1987年7月), 「今月の日本史」(歴史読本32—15, 33—1, 244—245頁, 180～181頁, 新人物往来社, 1987年8月, 1988年1月), 「二百年前の世界と日本」(学図教科研究・社会10—7, 14～15頁, 学校図書(株), 1987年11月), 「ベルツと日露戦争」(学図教科研究・社会10—10, 16～17頁, 学校図書(株), 1988年2月), 「明治立憲制と政党」(明治の政党特別展展示目録8～12頁, 憲政記念館, 1988年2月)。

千葉 昶

⑤「Chinese History in Shigaku Zasshi Vol. 95, 1986」(Revue Bibliographique de Sinologie V, Editions de L'école des Hautes Études en Sciences Sociales Paris, 1988年2月)。

林 望

③「岩崎文庫貴重書書誌解題稿(四)」(酒井憲二・石塚晴通・柳田征司・朽尾武と共同, 東洋文庫書報19, 1~16頁, 東洋文庫, 1987年3月), 「八文字屋刊行浮世草子書誌解題稿(二)」(東横国文学20, 15~73頁, 東横国文学会, 1987年3月)。

藤枝 晃

③「中国北朝写本の三分期」(古筆学叢林1 “古筆と国文学” 3~36頁, 古筆学研究所編, 八木書店発行, 1987年10月), ④「甲骨学の転機」(東方学74 貝塚茂樹博士追悼録, 180~182頁, 東方学会, 1987年7月), 「敦煌で初めて開かれた敦煌学会」(毎日新聞大阪版, 1987年12月1日夕刊), ⑦“Zukünftige Probleme der Bearbeitungen chinesisch-buddhistischer Handschriftenreste aus Turfan”(Tagung “Probleme der Edition und Bearbeitung altorientalischer Handschriften”, Akademie der Wissenschaften der DDR, Berlin DDR, 1987年5月4日~6日), 「關於220窟政改修若干問題」(敦煌研究院, 敦煌石窟研究国際討論会, 1987年9月20日~27日, 『提要』1~2頁, 『英文提要』1~2頁)。

古屋 昭弘

①「明・成化本『劉知遠還鄉白兔記』の言語」(中国文学研究13, 13~30頁, 早稲田大学中国文学会, 1987年12月), ⑤「辞書の話①②」(NHK テレビ『中国語講座』1987年4月号, 83~85頁, 1987年5月号, 80~82頁)。

護 雅夫

【昭和61年度】②『オリエント史講座 第五卷—スルタンの時代—』(前嶋信次, 杉男共編, 学生社, 1986年3月, 193頁), 『オリエント史講座 第六卷—アラブとイスラエル—』(前嶋信次, 杉男共編, 学生社, 1986年9月, 220頁), ③「コンスタンティノーブルの征服」(オリエント史講座 第五卷, 学生社, 1986年3月, 170~193頁), 「イエニセイ碑文に見える säkiz adaqlıy barım について」(日本大学人文科学研究所研究紀要32, 29~56頁, 日本大学人文科学研究所, 1986年3月), 「カザーフ人の遊牧形態そのほか」(内陸アジア史研究3, 1~10頁, 1986年3月),

「アルトゥン-キョル第一碑文考釈」(東方学74, 1~17頁, 東方学会, 1986年7月), ⑧「トルコ民族に魅せられて(4)―『草原とオアシスの人々』の周辺―」(季刊東西交渉17, 21~29頁, 井草書房, 1986年3月)。

【昭和62年度】③「アルトゥン-キョル第二碑文考釈」(『東方学会創立四十周年記念 東方学論集』, 797~811頁, 東方学会, 1987年6月), ④「日本学講座開設から帰って」(朝日新聞, 1987年11月19日), 「トルコ共和国における日本研究」(東方学75, 165~172頁, 東方学会, 1988年1月), ⑦「日本人は何処から来たか」(アンカラ・ロータリー・クラブ, 1987年2月4日), 「日本人とトルコ人」(アンカラ日本人学校, 1987年2月5日), 「中央アジアにおける文化交流」(アンカラ大学言語・歴史・地理学部公開セミナー, 1987年5月21日), 「日本人の起源」(アンカラ中東工科大学公開講演会, 1987年5月26日), 「日本におけるナスレディン・ホジャ研究, アクシェヒル・ナスレディン・ホジャ・セミナー, 1987年7月7日), 「メヴレヴィー教団の旋舞について」(上智大学アジア文化研究所公開講演会, 1987年12月15日)。

#### 矢澤 利彦

①「『北京四天主堂物語』—もう一つの北京案内記—」(平河出版社, 1987年9月, 404頁), ③「浜まつと広東女子師範学堂」(東方81, 2~6頁, 東方書店, 1987年12月), “Christianisme et religions populaires en Chine” Discussion Paper Series III-16, Sophia University 1988), ⑦「キリスト教と中国の民間宗教」(日仏セミナー, 1987年12月8日, パリ第1大学講堂)。

#### 柳田 征司

③「古文における連用格」(山口明穂編『国文法講座3 古典解釈と文法—助詞の機能』, 116~155頁, 明治書院, 1987年5月), 「あて字」(佐藤喜代治編『漢字講座3 漢字と日本語』, 235~253頁, 明治書院, 1987年11月), 「抄物関係文献目録(二) [付]抄物ならびに抄物関係資料影印・翻刻目録」(抄物の研究6, 1~47頁, 愛媛抄物研究会, 1987年12月), 「近代語「テアル」」(愛媛国文と教育19, 1~15頁, 愛媛大学教育学部国語国文学会, 1987年12月), 「惟高抄物略注(-)」(愛媛大学教育学部紀要第II部人文・社会科学20, 59~73頁, 愛媛大学教育学部, 1988年2月), 「書き入れ仮名抄再補(漢籍追補・仏典)」(文苑42, 3~8頁, 愛媛大学国語国文学研究会, 1988年3月), 「愛媛県方言関係文献目録(続)」(坊っちゃん列車44, 237~241頁, 愛媛大学作文の会, 1988年3月)。

山口 端鳳

①『チベット(上)』(東大出版会, 1987年6月, 337頁), 『同(下)』(東大出版会, 1988年3月, 372+24頁), ③「助動詞《yin》《yod》と動詞《'dug》一訳経文を含む古代文献の用法一」(高崎直道博士還暦記念論集(インド学・仏教学論集), 838~818頁, 春秋社, 1987年10月), 「インド仏教における「方便」」(東方3, 52~69頁, 東方学院, 1987年12月)。

山崎 元一

③「ジャータカのバラモン一住期説との関係を中心に一」(『東方学会創立四十周年記念 東方学論集』, 813~827頁, 東方学会, 1987年6月), 「古代インドのバラモン一窮迫時の法をめぐって一」(東洋学報69-1・2, 1~26頁, 東洋文庫, 1988年1月), 「古代インドの学生生活一律法経と仏典を史料として一」(国学院雑誌89-1-2, 71~87頁, 国学院大学, 1988年2月), ⑦「古代インドのバラモン一生活の理想と現実一」(東洋史研究会大会, 1987年11月3日, 京大会場)。

山根 幸夫

③「〈満州〉建国大学の一考察」(社会科学討究32-3, 97~130頁, 早稲田大学社会科学研究所, 1987年4月), 「広東黄蕭養の乱」(『東方学会創立四十周年記念 東方学論集』, 861~876頁, 東方学会, 1987年6月), 「日華軍事秘密協定と日・中の世論」(藤倉文子共著, 東京女子大学論集38-1, 37~64頁, 東京女子大学学会, 1987年9月), 「孫文とキリスト教」(史論41, 1~11頁, 東京女子大読史会, 1988年3月), ⑤「『嘉興府城鎮経済史料類纂』」(浙江学刊1987-3, 35~39頁, 浙江省社会科学院, 1987年5月), 「岩見宏著『明代徭役制度の研究』」(東洋史研究46-1, 161~168頁, 東洋史研究会, 1987年6月), 「中国海洋発展史論文集編纂委員会編『中国海洋発展史論文集』(1)(2)」(東洋学報69-1・2, 87~92頁, 東洋文庫, 1988年1月), 「王綱『張献忠大西軍史』」(明代史研究16, 50~52頁, 明代史研究会, 1988年3月), ⑦「明末農民戦争と知識階層的意識」(第二次全国明末農民戦争史学術討論会, 1987年9月5日, 中国四川省錦陽市), ⑧「記台湾著名明清史專家李光涛教授」(劉孔伏訳, 図書館工作1987-2, 44~45頁, 安徽省図書館学会, 1987年), 「私の歴史の先生たち」(東京女子大学学報40-10, 2頁, 東京女子大学, 1987年10月), 「中国における日本研究」(史論41, 12頁, 東京女子大読史会, 1988年3月), 「敗戦直後の東洋史部会」(歴史学研究戦後第1期復刻版7, 1988年3月)。



和田 博徳

- ③「明代の匠官と士大夫官僚—工匠出身官僚の輩出とその意義—」(『東方学会創立四十周年記念 東方学論集』, 933~952頁, 東方学会, 1987年6月), ⑤「浅井紀著『明清時代民間宗教結社の研究』」(史学57—2, 165~168頁, 1987年9月), ⑦「アジアの近代化と慶應義塾」(三田史学会大会公開講演, 1987年5月9日)。

渡辺 紘良

- ⑤「天保十年伊勢参りの記録(三)」(独協医科大学教養医学科紀要10, 1~18頁, 独協医科大学教養医学科, 1987年12月), ⑦「建炎四年福建における通商法の施行をめぐって」(中国泉州市市舶司開設九百周年記念シンポジウム, 1987年11月27日), ⑧「幕末の一旅行」(独協医科大学学内だより156, 2頁, 昭和62年7月1日)。

## 財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

(昭和63年3月31日現在)

研究員名	主たる研究課題
荒松雄	南アジア史における民族・宗教と国家
池田温	中国古代史, 古代東アジア文化交流史
石塚晴通	日本語の歴史的研究, 古代漢字文献学
石橋崇雄	清朝八旗制度史及び内務府研究(満文資料)
市古宙三	太平天国及び中国共産党の研究
宇都木章	春秋時代政治史
梅村担	ウイグル民族誌, 内陸アジア史
海野一隆	東洋地理・地図学の研究
榎一雄	職貢図の研究
越智重明	漢魏晋南北朝史
岡田英弘	北アジア史
亀井孝	日本語の歴史的研究
川崎信定	チベット仏教の展開
河鱸源治	太平天国史の研究
神田信夫	清朝興起史
菊地英夫	唐宋時代の行政および法制(特に軍制)
北村甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草野靖	中国近世の租佃制度
クリスチャン A・ダニエルス	清代社会経済史, 中国技術史
小松久男	中央アジア近代史
河野六郎	中期朝鮮語の研究
後藤明	イスラム社会と政治
後藤均平	ベトナム・中国関係史及び中国古代史の研究
佐伯富	唐栄時代における枢密院の研究
佐竹昭広	中世日本文学の史的研究
佐藤次高	イスラム中世社会経済史の研究
酒井憲二	日本語の史的研究
志茂碩敏	13・4世紀モンゴル政権の中枢・中核について
斯波義信	中国社会経済史
滋賀秀三	中国法制史—法と訴訟—の研究
清水宏祐	セルジューク朝時代のイラン
周藤吉之	宋・高麗との関係史再究

研究員名	主たる研究課題
末松保和	柳成龍の伝説
鈴木立子	元朝における社会経済史
関野雄	中国考古学の研究
田川孝三	受教輯録索引作成
田中時彦	日本の政治的近代化の研究
田中正俊	中国近代社会経済史
武田幸男	朝鮮古代史の研究
千葉 喫	宋代の外戚
竺沙雅章	中国宗教社会史
鶴見尚弘	明・清時代社会経済史の研究
枋尾武	玉造小町壮衰業の研究
土肥義和	西城出土漢文文書の研究
鳥海靖	近代日本政治外交史
中嶋敏	宋代史
永田雄三	トルコ史
花田宇秋	正統カリフ・ウマイヤ朝史研究
八尾師誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命
林望實	近世印刷文化の史的研究
原 實	インド古代文学の研究
福田洋一	仏教倫理学研究
藤枝晃	(文字の文化史)
古屋昭弘	中国語の音韻史的研究
本庄比佐子	1920~30年代中国政治史
本田實信	フラグ・ウルス国制史
松濤誠達	インド古代神話学
松村潤	東北アジア民族史
松本明	中国隋唐政治制度史
三根谷徹	漢字音の研究
護雅夫	トルコ民族史
森岡康	李朝中期の政治及び社会史の研究
矢沢利彦	中国カトリック教史
柳田征司	日本語の歴史的研究
山口端鳳	チベット史、チベット語文法、チベット仏教
山崎元一	インド古代史
山根幸夫	明清社会経済史、近代日中関係史
山本達郎	ベトナム・中国関係史の研究、敦煌発見の籍帳類の研究
和田博徳	明清時代の社会経済史の研究
渡辺宏	中近世東西交渉史の研究
渡辺紘良	宋代社会史の研究

## IV 業 務 報 告

### 1. 総務報告

#### i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

##### 理 事 会

- 第263回 開催日 昭和62年6月9日（火曜日）  
出席者 榎 一雄，有光次郎，市古宙三，林 健太郎，河野六郎  
奥野 高，播磨俊雄  
委任状 小笠原光雄，田中正俊，中村俊男，松本重治，山本達郎
- 第264回 開催日 昭和62年6月9日（火曜日）  
出席者 榎 一雄，有光次郎，市古宙三，林 健太郎，河野六郎  
奥野 高，播磨俊雄  
委任状 小笠原光雄，田中正俊，中村俊男，松本重治，山本達郎
- 第265回 開催日 昭和62年12月8日（火曜日）  
出席者 榎 一雄，有光次郎，市古宙三，岩崎寛彌，河野六郎  
護 雅夫，山本達郎，奥野 高，播磨俊雄  
委任状 小笠原光雄，田中正俊，中村俊男，林 健太郎，松本重治

##### 評議員会

- 第120回 開催日 昭和62年6月9日（火曜日）  
出席者 岡野 澄，亀井 孝，神田信夫，関野 雄，中嶋 敏  
前田充明  
委任状 石川忠雄，田部文一郎，中田乙一，中山素平，西島安則  
西原春夫，長谷川周重，日比野丈夫，森 亘

## ii 東洋学連絡委員会の開催

前期 開催日 昭和62年5月26日(火)

出席者 榎 一雄(委員長), 市古宙三, 岩生成一, 中嶋 敏  
福井康順, 本田實信, 宮崎市定, 山本達郎

議 題 1. 昭和61年度財団法人東洋文庫事業報告について  
2. 昭和62年度財団法人東洋文庫事業計画について  
3. その他

後期 開催日 昭和62年12月1日(火)

出席者 榎 一雄(委員長), 市古宙三, 中嶋 敏, 宮崎市定  
山本達郎

議 題 1. 昭和62年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
2. 昭和63年度財団法人東洋文庫事業計画案について  
3. その他

## 2. 人事報告

### i 役員移動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62. 6. 9	理事	岩崎寛彌	就任	
63. 1. 6	〃	小笠原光雄	逝去	

### ii 委員移動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62.12. 1	東洋学連絡 委員会委員	小川環樹	退任	
62.12.10	〃	入矢義高	就任	
63. 3.21	〃	岩生成一	逝去	

iii 職員移動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62. 4. 1	図書部長	榎 一 雄	退任	
"	"	田 中 正 俊	就任	
"	総務部長補佐	松 本 明	退任	
"	研究員(奨励)	飯 尾 秀 幸	就任	
"	"	石 川 重 雄	"	
62. 6. 1	参 事	清 村 勝 二	退職	
62. 7. 1	総務課長	光 田 憲 雄	就任	
62. 8. 1	参 事	宮 根 正	就職	
63. 3.31	"	"	退職	
"	研究員(奨励)	片 山 章 雄	退任	

iv 受 賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62. 4.29	東洋学連絡委員会委員	佐 藤 長	受章	勲二等瑞宝章

v 表 彰

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62.11.19	司 書	西 薊 一 男	勤続	20年

## V 役職員名簿

昭和63年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役員

役職名	氏名	現職
理事長	榎 一 雄	東京大学名誉教授
理事	有 光 次 郎	日本芸術院院長 東京家政学院大学学長
〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	株式会社三菱銀行取締役 東山農事株式会社代表取締役社長
〃	河 野 六 郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	田 中 正 俊	財団法人東洋文庫図書部長 信州大学教授
〃	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林 健太郎	参議院議員 東京大学名誉教授
〃	松 本 重 治	財団法人国際文化会館理事長
〃	護 雅 夫	財団法人東洋文庫研究部長 日本大学教授 東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監 事	奥 野 高	前財団法人三菱財団常務理事
〃	播 磨 俊 雄	三菱金曜会顧問

役職名	氏名	現職
評議員	石川 忠雄	慶応義塾長
〃	岡野 澄	財団法人井上科学振興財団常務理事 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター運営委員
〃	亀井 孝	一橋大学名誉教授
〃	神田 信夫	明治大学教授
〃	関野 雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田部 文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	中嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	中田 乙一	三菱地所株式会社取締役相談役
〃	中山 素平	株式会社日本興業銀行特別顧問
〃	西島 安則	京都大学学長
〃	西原 春夫	早稲田大学総長
〃	長谷川 周重	住友化学工業株式会社取締役相談役
〃	日比野 丈夫	大手前女子大学学長 京都大学名誉教授
〃	前田 充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	森 亘	東京大学学長



## 2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	榎 一 雄	(前掲出)
常任委員	山 本 達 郎	〃
委 員	市 古 宙 三	〃
〃	入 矢 義 高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
〃	江 上 波 夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
〃	佐 藤 長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
〃	長 尾 雅 人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	(前掲出)
〃	日比野 丈夫	〃
〃	福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
〃	本 田 實 信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
〃	宮 崎 市 定	京都大学名誉教授

## 3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
A. フォン・ガペイン	前ハンブルグ大学教授
J. ジェルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

#### 4. 職 員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	護 雅 夫	(前 掲 出)
	部 長 代 理	田 中 正 俊	〃
	部 長 補 佐	佐 藤 次 高	東京大学助教授
	研 究 顧 問	岩 村 忍	京都大学名誉教授
	研 究 員 (兼 任)	荒 松 雄	津田塾大学教授
	〃	池 田 温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学助教授
	〃	石 橋 崇 雄	国土館大学専任講師
	〃	市 古 宙 三	(前 掲 出)
	〃	宇都木 章	青山学院大学教授
	〃	梅 村 坦	立正大学助教授
	〃	海 野 一 隆	明浄女子短期大学教授
	〃	越 智 重 明	久留米大学教授
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所教授
	〃	亀 井 孝	(前 掲 出)
	〃	川 崎 信 定	筑波大学教授
	〃	河 鱈 源 治	愛知大学講師
	〃	神 田 信 夫	(前 掲 出)
	〃	菊 地 英 夫	北海道大学教授
	〃	北 村 甫	附置ユネスコ東アジア文化研究 センター所長 麗澤大学教授
	〃	草 野 靖	熊本大学教授
	〃	クリスチャン A・ダニエルズ	就実女子大学専任講師
	〃	小 松 久 男	東海大学助教授
	〃	河 野 六 郎	(前 掲 出)
	〃	後 藤 明	山形大学助教授
	〃	後 藤 均 平	立教大学教授
〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授	
〃	佐 竹 昭 広	成城大学教授	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	酒 井 憲 二	図書館情報大学教授
	"	斯 波 義 信	東京大学教授
	"	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
	"	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
	"	清 水 宏 祐	東京外国語大学助教授
	"	周 藤 吉 之	元東京大学教授
	"	末 松 保 和	学習院大学名誉教授
	"	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
	"	関 野 雄	東京大学名誉教授
	"	田 川 孝 三	元東京大学講師
	"	田 中 時 彦	東海大学教授
	"	武 田 幸 男	東京大学教授
	"	千 葉 熨 禎	桐朋学園校長, 大学部講師
	"	竺 沙 雅 章	京都大学教授
	"	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	"	朽 尾 武	成城大学教授
	"	土 肥 義 和	国学院大学教授
	"	鳥 海 靖	東京大学教授
	"	中 嶋 敏	( 前 掲 出 )
	"	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	"	八尾師 誠	東京外国語大学専任講師
	"	花 田 宇 秋	明治学院大学助教授
	"	林 望	東横学園女子短期大学助教授
	"	原 實	東京大学教授
	"	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	"	古 屋 昭 弘	早稲田大学助教授
"	本 田 實 信	( 前 掲 出 )	
"	松 濤 誠 達	大正大学教授	
"	松 村 潤	日本大学教授	
"	三根谷 徹	国学院大学教授	
"	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	矢 沢 利 彦	埼玉大学名誉教授
	"	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	"	山 口 瑞 鳳	名古屋大学教授
	"	山 崎 元 一	国学院大学教授
	"	山 根 幸 夫	東京女子大学教授
	"	山 本 達 郎	( 前 掲 出 )
	"	和 田 博 徳	創価大学教授
	"	渡 辺 宏	東洋大学アジア・アフリカ研究 所研究員
	"	渡 辺 紘 良	独協医科大学助教授
	研究員(専任)	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	田 中 正 俊
	東洋文庫長	渡 辺 兼 庸*
	主 査	小 山 勲*
	副 主 査	池 田 直 人*, 志 茂 碩 敏*, 竹之内 信 子*
	"	秩 父 良 子*, 広 瀬 洋 子*
	事務主任	小 林 輝 男*
	係 員	浅 野 千 秋, 西 蘭 一 男
総務部	部 長	田 中 満 利
	課 長	光 田 憲 雄
	係 員	金 子 祐 子, 広 木 節 巳, 吉 田 男 佐 武

(\*印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

## 5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	岩見 隆, 金沢 篤, 大金富雄, 高綱正子, 中村淳一, 蓮沼龍子 広瀬一恵, 福田裕美子, 伏見小百合, 藤元光彦
図書部	大島誠二, 大稔哲也, 久保田宏次, 桜井徹, 清水一枝, 鈴木 修 関 喜房, 高田幸男, 角田和夫, 仁平義孝, 浜尾彰久, 三宅克広 ヤマンラール水野美奈子, 吉安昌夫, 渡辺 修
総務部	大島由子, 鈴木立子, 中太葉子

## VI 財団法人東洋文庫附置

### ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

**【概要】** 東アジアを中心とするアジア諸地域の文化・社会の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、東アジアの文化の研究の促進及びその研究成果の普及を図る。

#### 1 情報活動

**【概要】** アジア諸地域の文化・社会に関する情報を組織的かつ継続的に収集、交換するため、又、研究機関相互間の協力を活発化させるため、国内外の諸研究機関との緊密な連絡をはかる。

##### 1-1. 国内研究機関との連絡

**【概要】** 国内のアジア研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集・整理し、公開するとともに、研究機関・研究者相互間の交流を促進する。

##### **【事業内容】**

###### (1) 国内研究機関の情報の収集

研究機関のリストアップをし、その活動状況に関する聞き取り調査を28機関について行った。また、研究機関が発行する要覧・紀要などの収集をした。

###### (2) 国内研究者名簿の作成

学会会員名簿など研究者名簿の収集、及びセンターがこれまでに蓄積した研究者データの整理をした。

##### 1-2. 国外研究機関の情報の収集・整理

**【概要】** 中国をはじめとするアジア諸国の人文・社会科学関係の研究機関の情報を組織的に収集・整理し、国際的な学術交流のための基本的資料とする。

##### **【事業内容】**

###### (1) 国外研究情報の収集

(1)―A. 専門家から、アジア諸国からの学術情報を収集するために必要な条件・状況などについての意見を聴取した。特に中国における研究機関の学術情報の収集について、来日中の中国社会科学院外事局高級項目官員兼亞非処処長張国維氏の意見をきいた。さらに、ネパール国立文書館の所蔵文書などについて専門家の意見を聞いた。

1月27日から2月18日まで中里成章調査外事室長をインドおよびネパールに、3月6日から3月27日まで坂本比奈子氏をタイに、また浜下武志東京大学東洋文化研究所助教授(3月6日から3月25日まで)、中島幹起東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授(3月14日から4月13日まで)、佐藤次高副所長(3月14日から3月29日まで)を中国に派遣し、それぞれの国のアジア関係研究機関の訪問調査を行った。

(1)―B. 研究会の開催

V. N. Misra (インド デカン・カレッジ考古学教授) 題目：インド考古学研究の最近の動向 (9月18日)

(1)―C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

今年度上記の外国人研究者以外でセンターを訪れ、センターが情報等の便宜供与を行った外国人研究者は以下のとおりである。

Dr Hans Vogel	The Needham Research Institute, Cambridge
Mrs Tomoko Mashimo	Associate Expert, Division of Studies and Dissemination of Cultures, Unesco, Paris
Dr Raouf Abbas Hamed	Professor of Modern History, Faculty of Arts, University of Cairo
Dr Gina L. Barnes	Affiliated Lecturer in East Asian Archaeology, Cambridge University
Mr Lu Yi-Xin	Foreign Affairs Bureau, Chinese Academy of Social Sciences, Shanghai, and Exchange of Persons Division, Japan Society for the Promotion of Science, Tokyo
Dr Siegfried Lienhard	Professor, Institute of Oriental Languages, Stockholm University

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| Mrs Sushila Narsimhan    | Lecturer, Department of Chinese and Japanese Studies, University of Delhi, and Visiting Associate, The Institute of Oriental Culture, University of Tokyo |
| Ms Nualchawee Suthamwong | Librarian, Faculty of Economics Library, Thammasat University, Bangkok, and Visiting Scholar, The Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University    |

(1) — D. ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存

ユネスコより寄託されたアジア諸国の歴史的資料のマイクロフィルム 847 リールのクリーニングを行った。さらにインドの部 189 リールの複製を作製した。

(2) 海外専門家の招聘

インド カルカッタ大学歴史学科講師 Dr Rudrangshu Mukherjee を学術交流を目的として、3月13日より3月27日まで招聘した。

1—3. 学術情報の提供

**【概要】** 収集した学術情報を、directory, bibliography 等として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

**【事業内容】**

(1) 海外研究機関一覧の編集

中国に存在するアジア関係研究機関のリストを作成した。

(2) 文献目録の編集・出版

「日本における中央アジア関係研究文献目録 1879年～1987年3月」を出版した。「ベトナム書誌」の原稿の校閲を川本邦衛慶応大学言語文化研究所教授に依頼して行った。

(3) 我が国に於けるアジア研究の現状の調査の編集・出版

「日本における東洋学の回顧と展望 1973～1983 アジアの部」の編集と下記4点の出版を行った。

Japanese Studies on Anthropology and Ethnology, 1973-1983 (Part II-2)

Japanese Studies on Linguistics of Asian Languages, 1973-1983 (Part II-6)

Japanese Studies on Modern and Contemporary Inner Asia, 1973-1983 (Part II-17)



## 2. 研究成果の英文出版

【概要】 アジア諸地域の文化・社会に関する資料及び研究の成果を英文で出版し、東アジアをはじめとする諸地域の関係研究者並びに研究機関に周知する。

### 【事業内容】

- (1) 機関誌「東アジア文化研究」の出版  
“East Asian Cultural Studies,” Vol. XXVII, Nos. 1-4 合併号を出版した。
- (2) 「ラーマ一世年代記第2巻註釈篇」の編集  
昨年度にひきつづき編集をすすめた。
- (3) 「タイにおける資本蓄積」の編集  
昨年度にひきつづき第6章-第8章, Appendix, および文献目録等の原稿を入手し、英文の校閲と編集を進めた。
- (4) 「アジア諸国における最近の考古学的発見」の出版  
第5巻パキスタン編を出版した。

## 3. 調査研究及び普及活動

【概要】 国内の他の研究機関の調査研究・普及その他の活動を補足し、センターを事務局とすることが効果的であると認められる事業を企画、運営する。

### 3-1. 「アジア諸国における建築と都市計画」(長期調査研究・5年計画最終年度)

【概要】 現代のアジア諸国では、ヨーロッパ様式の建築が多くとりいれられているが、その受容の過程を、アジアの伝統的建築の構造・機能の観点も含み考察し、合わせて都市化の問題をも検討することを目的とし、都市工学・人文・社会科学の領域にわたる学際的研究を行う。

【専門委員】 西川幸治(委員長)、飯塚キヨ、梅原 郁、応地利明、太田勝敏  
斯波義信

【事業内容】

専門委員会

3月16日：応地利明「ジャイプールの都市構成」

3月17日：西川幸治「インド・パキスタンの歴史都市—その再生への課題」

海外実地調査

8月4日～9月10日：応地利明「インド亜大陸のインドウ的都市における都市形成と建築デザイン」

11月24日～12月26日：西川幸治「南アジアにおける建築デザインと都市計画」

3月18日～4月8日：太田勝敏「インドネシア都市の空間構造の研究—ウジュン・パンダンを事例として」

3—2．各国語文献講読会

蒙古文語講読入門

期 間：7月20日（月）～8月28日（金）午前9時～12時（土，日曜日を除く）

会 場：東洋文庫3階会議室

講 師：小沢重男 東京外国語大学教授  
窪田新一 大正大学総合仏教研究所研究員

温品廉三

バイルメンド 内蒙古大学蒙古語文献研究所教師

修了者：12名

## 4. 業務報告

### A. 運営委員会・顧問会議・運営小委員会

#### 運営委員会

前期開催日 昭和62年5月26日(火曜日) 午後1時30分～3時30分

場所 東洋文庫3階会議室

出席委員 8名 委任状9名

報告 1. 人事について

(1) 運営委員の委嘱について

(2) 所長の交替について

2. 昭和61年度事業報告及び収支報告について

議題 1. 昭和62年度事業計画案及び収支予算案について

2. 運営委員の改選について

3. 顧問の改選について

4. 新運営委員の委嘱について

後期開催日 昭和62年12月1日(火曜日) 午後1時30分～3時

場所 東洋文庫3階会議室

出席委員 7名 委任状12名

報告 1. 人事について

2. 昭和62年度事業中間報告及び第1・2—四半期収支状況報告について

議題 1. 昭和63年度事業計画案及び収支予算案について

#### 顧問会議

開催日 昭和62年5月26日(火曜日) 午後1時30分～3時30分

場所 東洋文庫3階会議室

出席委員 委任状3名

報告 1. 人事について

(1) 運営委員の委嘱について

(2) 所長の交替について

2. 昭和61年度事業報告及び収支報告について

- 議 題 1. 昭和 62 年度事業計画案及び収支予算案について  
 2. 運営委員の改選について  
 3. 顧問の改選について  
 4. 新運営委員の委嘱について

運営小委員会

- 日 時 昭和 62 年 6 月 17 日 (水曜日) 午後 3 時 30 分～6 時  
 場 所 京都大学東南アジア研究センター所長室  
 議 題 1. 今後の活動方針について  
 2. 昭和 62 年度事業計画について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62. 4. 1	運営委員	小野 正雄	就任	東京大学史料編纂所所長
〃	〃	尾崎 雄二郎	〃	京都大学人文科学研究所所長
6. 5	〃	佐々木 高明	〃	国立民族学博物館教授
〃	〃	中根 千枝	〃	東京大学名誉教授
6.30	〃	福井 康順	退任	早稲田大学名誉教授
9.21	〃	重藤 学二	〃	文部省大臣官房審議官
9.22	〃	光田 明正	就任	文部省大臣官房審議官
9.30	〃	森崎 久壽	退任	アジア経済研究所所長
10. 1	〃	宗像 善俊	就任	アジア経済研究所所長
11.30	顧問	佐藤 正二	退任	国際交流基金理事長
12. 1	〃	鹿取 泰衛	就任	国際交流基金理事長
63. 3.21	運営委員	岩生成一	死去	学士院会員
3.31	〃	奥平 康弘	退任	東京大学社会科学研究所所長
〃	〃	山崎 利男	〃	東京大学東洋文化研究所所長

### C. 職員異動

年月日	職名	氏名	区分	備考
62. 4. 1	調査資料室長	中里成章	就職	
"	専門員	John Wisnom	就職	
63. 3. 31	調査外事室長	中里成章	退職	

### D. 受章

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62. 4. 30	運営委員	森崎久壽	叙勲	勲二等瑞宝章

### E. 会計報告

#### 昭和62年度ユネスコ東アジア文化研究センター

(昭和63年3月31日現在)

支出の部		収入の部	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
事業費	34,201	国庫補助金	80,019
情報活動費	21,035	財産収入	7
国内研究機関との 連絡費	1,660	雑収入	7,927
国内研究機関の情報 の収集整理費	8,326		
学術情報の提供費	11,049		
研究成果の英文出版費	7,818		
調査研究及び普及活動 費	5,348		
経常費	53,752		
人件費	47,213		
事務費	6,539		
計	87,953	計	87,953

## 5. 役職員名簿

昭和63年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下の通りである。

A. 所長 北村 甫

B. 副所長 佐藤 次高

C. 運営委員

氏名	現職
阿曾村 邦 昭	文部省大臣官房審議官
石 井 米 雄	京都大学東南アジア研究センター所長
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
梅 田 博 之	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
小 野 正 雄	東京大学史料編纂所所長
尾 崎 雄二郎	京都大学人文科学研究所所長
尾 高 邦 雄	東京大学名誉教授
岡 野 澄	財団法人井上科学振興財団常務理事・財団法人東洋文庫評議員
奥 平 康 弘	東京大学社会科学研究所所長
加 藤 淳 平	国際交流基金専務理事
河 野 靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
佐々木 高明	国立民族学博物館教授
光 田 明 正	文部省大臣官房審議官
高 田 修	東京国立文化財研究所名誉研究員
中 根 千 枝	東京大学名誉教授
中 村 元	日本学士院会員・東方学院院长・東京大学名誉教授
服 部 四 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福 井 直 俊	ユネスコ・アジア文化センター理事長
宗 像 善 俊	アジア経済研究所所長
山 崎 利 男	東京大学東洋文化研究所所長
山 本 達 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事

#### D. 顧問

氏名	現職
植木 浩	文部省学術国際局局长
鹿取 泰衛	国際交流基金理事長
佐治 敬三	日本ユネスコ国内委員会会長
前田 充明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長・財団法人東洋文庫評議員

#### E. 参与

氏名	現職
青山 秀夫	日本学士院会員・京都大学名誉教授
織田 武雄	京都大学名誉教授
田村 實造	京都大学名誉教授
長尾 雅人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
丸山 真男	日本学士院会員・東京大学名誉教授
宮崎 市定	京都大学名誉教授

## F. 専門員

John Wisnom

## G. 職員

職名	氏名
調査外事室長	中里成章
普及室長	外池明江
庶務会計室長	飯田隆子
研究員	本庄比佐子 福田洋一
参事	設楽靖子 坂本葉子 小林和弘

## H. 臨時職員

昭和62年4月1日から昭和63年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

石丸由美、磯貝健一、宇野伸浩、海老名千夏、大稔哲也、岡洋樹、金子秀隆、見目かおり、後藤敦子、近藤信彰、斎藤美津子、佐野佳子、清水敏江、高綱正子、高橋博史、高松洋一、原美和子、原口加津子、林佳世子、弘末雅士、福井幸子、藤田美和、藤縄智子、古瀬珠水、保坂修司、松長昭、ヤマンラール水野美奈子、横田久美子





財団法人 東洋文庫年報 昭和62年度

---

平成元年3月25日 発行 (非売品)

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫  
榎 一 雄

印刷者 東京都中央区湊2-8-7

株式会社 Dig

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

---

本書は昭和63年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。

